4）中尾繁史「テキストマイニングによる保育実習の学びの分析」日本保育者養成教育学会第４回研究大会、福山市立大学、2020 年 3 月 1 日

テキストマイニングによる保育実習の学びの分析

中尾繁史（仁愛女子短期大学幼児教育学科）

保育の学びがみえる仁短

【目的】

本学は、「保育者育成のためのキャリア・ルーブリックの開発～シームレスな高校・短大・保育現場の繋がりを目指して～」を研究テーマとして、2018年度私立大学研究ブランディング事業に採択された。保育実習は保育者養成校での学びを確認する重要な機会であり、シームレスな接続を目指す上では保育実習での学びの分析は不可欠である。

そこで、本研究では本学学生の実習後の振り返りの際に記述したレポートを分析し、今後の実習指導やカリキュラム編成に資する知見を得ることを目的とした。

【方法】

研究対象：対象とする学生は、平成30年度入学の本学2回生102名とした。当該学生は平成31年2月に保育所での参加・観察実習、同年8月に施設での参加・観察実習、同年9月に保育所での指導実習を行った。本学では実習後に定式化したアンケートで振り返りを行うとともに、自由記述方式で自身の経験を記述するように指導を行ってきた。本研究を行うにあたり、学生には**「ポジティブ（プラス）な思ったことや感想」**、**「ネガティブ（マイナス）な思ったことや感想」**、**「後輩に伝えたいこと」**の視点から経験を振り返る課題を設定し、この3項目全てに記述があるものを分析対象とした。

分析方法：解析に用いたレポートは学生の同意が得られたものを対象とした。なお、レポートの内容や文字数は一切の制限を受けていない。形態素解析には“茶筌”を、テキストマイニングには“KHCoder3”を用いた。施設実習でのレポートのみ、強制抽出単語として「利用者」を設定した。

【結果】

それぞれの実習で後輩に伝えたいこととして記述されたレポートの分析結果を報告する。出現数５以上の抽出語同士の共起関係ネットワークをFig. 1～3に示す。保育所参加観察実習では、絵本、読む、手遊び、ピアノ、レパートリー、練習といった単語の共起性と出現頻度が高い。サブグラフ数は8であった。施設参加観察実習では、利用者、関わる、施設、職員、自分といった単語の共起性と出現頻度が高い。サブグラフ数は10であった。保育所指導実習では、指導、事前、準備、設定、保育、子どもといった単語の共起性と出現頻度が高い。サブグラフ数は8であった。

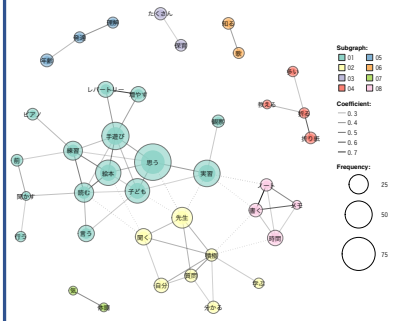

Fig.1 保育所参加観察実習

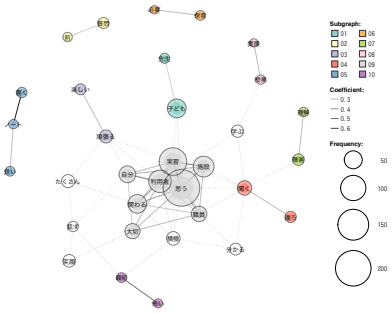

Fig.2 施設参加観察実習

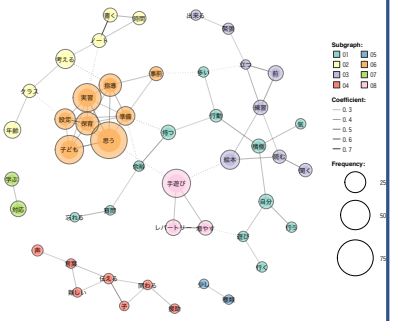

Fig.3 保育所指導実習

【考察】

保育所参加観察実習のレポート内容では、手遊びや、絵本の読み聞かせ、ピアノ曲のレパートリーを増やすことに言及する学生が多かった事から、ハウツー的な知識・技能が必要だったと感じた学生が多かったと推測される。また、積極的に質問することなど実習に対する姿勢に関連すること、年齢ごとの発達の理解に言及している学生も多かったことから、実習でなければ実感できないことも多いと推測される。

施設参加観察実習のレポート内容では、利用者と施設職員の関わりから、利用者と自分の関わり方について学ぶことが多かったと感じた学生が多かったと考えられる。実習先によって利用者の特性が大きく異なることもあり、楽しいと感じたり怖いと感じたり、保育所での実習ではあまり言及されなかった感覚をもった学生が一定数いたことがわかる。

保育所指導実習では、手遊びのレパートリーを増やすことや絵本を読む練習が必要と表現するなどハウツー的な知識・技能は必要としながらも、設定保育のために子どもの発達や年齢に合わせた課題設定をするために事前の準備を徹底する必要があると記述した学生が多いことが示された。

施設実習での経験は福祉のあり方を学ぶ機会として重要であり、保育所での実習とは質的に異なること考えられる。保育所での実習では、事前準備をしておくべきだったと述べた学生が多いことから、養成校での教授内容については、保育を円滑に行うための具体的な知識・技能の割合を増やすことも検討する必要があると考えられる。

参考文献
樋口耕一(2017)「軽量テキスト分析およびKHCoderの利用状況と展望」『社会学評論』68(3), 334-350

付記
本研究は、2018年度私立大学研究ブランディング事業「保育者育成のためのキャリア・ルーブリックの開発~シームレスな高校・短大・保育現場の繋がりを目指して~」(取組責任者:増田翼)の成果の一部である。

仁愛女子短期大学
Jin-ai Women's College